

2-2-11 分科会 「色や形で伝えようー絵本づくりでー」

担当者 長瀬達也 受講学生名 17名

活動概要： 社会や学校では、言葉が重要な位置を占めています。しかし、人間にとっては色や形も、思考や伝達などの重要な道具です。ここでは、自分の伝えたいことや、表現したいことを、言葉を使わないで、色や形だけを使った絵本をつくることで、色や形、画像や映像の力について考えていくことにしました。

具体的な活動としては、まず色や形による初歩的な表現をやってみたり、「はらぺこあおむし」などを創ったエリック・カールの色や形の表現の哲学や方法論を調査したりしました。これらの成果を生かして、色や形だけを使った絵本をつくっていきました。

活動風景：





受講学生の感想（受講生の受講カードより抽出）

- 言葉が無くても、絵だけで相手に自分の考えを伝えるのはすごく難しいことだなあと思いました。自分であり考えないで描いたものが、他人の手を加えるだけで、あそこまで進化するもんなんだ、と面白くなりました。（11月4日の感想より）
- みんな既に構想がまとまっていて、ストーリー性があるってすごいなと思った。私はテーマとしては「窓から見える風景」にしたいと思ったけれど、最後どうしたらよいか浮かんでこない。様々な生き物の家から窓の外を見ると面白そう！！と思ったのだが…。もう少し考えてみたいと思う。（11月11日の感想より）
- 一人一人自分のテーマに沿って、自分なりの表現をしていることが作品からとても伝わってきた。私は出来たものから物語を連想するとうことでテーマが見つかるまでが長かった。実際、今日ここに来て、付箋を書いているときに「発見だから飛び出してくる感じがいいな。」というように色々浮かんでくるほど定まっていない。だが、ようやく製作が楽しくて、家でも作業が進むようになってきた。他の人の発表を聞いていると、本当にいろと形で何かを表現しようとしているのが伝わってきて、自分に自信がなくなったり、すごく揺さぶられたりした。
しかし、優劣ではなくて、しっかり自分の作品を考えるときの参考として吸収し、これからも自分の表現に自信を持って製作にあたりたい。自分にとってはよい刺激になったと思うし、自分のものが他の人の作品にも参考にしてもらえるように頑張りたい。（12月16日の感想より）